

第38回田原市市民協働まちづくり会議 議事録要旨

1 日 時	令和6年10月3日（木）午前10時30分～12時05分
2 場 所	300会議室
3 出席者	別紙「出席者名簿」のとおり
4 連絡事項	1 会長、副会長の選任について 2 報告事項 （1）市民協働まちづくりの推進体制について （2）市の機関の取組について （3）市民活動支援制度活用状況に （4）田原市民活動支援センターの運営について 3 その他 ○ 意見交換等 ○ 愛知大学地域政策学部の実例紹介※会議では会長選任後に紹介

※委員の発言に対する回答・意見について

“⇒”で示したものは事務局の回答・意見

“➡”で示したものは報告者（委員、参加者）からの回答・意見

会議内容要旨

事務局：会議資料の確認

1 会長、副会長の選任について

会 長：藤井吉隆委員に決定。藤井会長よりあいさつ

副会長：藤原裕泰委員に決定。藤原会長よりあいさつ

※ 愛知大学地域政策学部の学生地域貢献事業事例紹介

○愛知大学政策学部 市川さん：資料7について説明（以下概要）

- ・学生地域貢献事業とは、愛知大学地域政策学部の学生が自主的に地域と連携し、活動するもの。
- ・事業のひとつ「おいでん喫茶」では、田原市をフィールドとして、「爺ちゃん婆ちゃん喫茶」（一色集会所）、「よってきん会」（田原福祉センター）の2つの高齢者コミュニティを訪問し、高齢者の生きがいや居場所づくりを目的に、活性化を目指して活動している。
- ・活動によって学生自身も企画力、コミュニケーション能力を養うことができている。また、田原市の魅力も知ることのできたので、SNSを通じてPRしていきたい。

《委員からの質疑・意見》

- ・田原市の魅力とは。
 - ➡自然の豊かさ。ドライブするだけでも色々な花を楽しめるところが特によい。
- ・おいでん喫茶は、高齢者がいるところに訪問するのか、場所を提供して高齢者がきてもらうのか。また、飲料の提供等は有料で行っているのか。
 - ➡もともとの高齢者コミュニティに訪問している。飲料等はコミュニティが用意している。

- ・企画の準備等の費用はどうしているのか
⇒愛知大学の助成金を活用している。
- ・高齢者との交流と学生のスキル向上はどちらも大切だが、どちらに重きを置いているか。
⇒高齢者との交流に重きを置いて活動している。
- ・高齢者コミュニティ参加者について、女性と男性の比率は。
⇒おいでん喫茶は全員女性、よってきん会は男性1名で、その他の参加者は女性。女性が多いため、男性は話に入りづらいなどの意見もある。
- ・市民活動全体をみると自治会は男性が多いが、高齢者コミュニティのような集まりは女性のほうが多い傾向を感じる。このような活動は大切だが、男女比も含めて考えてみるとより良いものになると思う。
- ・活動場所によって年齢層も異なっているので、そこも踏まえて学生は企画を考えている。また、数年前に男性の参加者を増やしたいという考えがあったが、結果としてはうまくいかなかった。
※藤井会長による補足

《まとめ（藤井会長）》

- ・学生地域貢献事業は学生が主体的に様々なテーマで活動しており、約17団体ある。たとえば子ども食堂の運営、名鉄西蒲線での活動などがある。活動の場所も色々。また何か地域の困りごとなどあればお声がけいただきたい。（藤井会長）

2 報告事項

（1）市民協働まちづくりの推進体制について

○事務局：資料1、2について説明。

《委員からの質疑・意見》

- ・令和5年度の会議で市民への情報発信が課題としてあがっていたが、どのように対応を検討しているか。
⇒前回の会議での指摘後、市ホームページのトップページに新着情報として改めて掲載した。PR不足は課題であると感じているので、今後も発信について検討していきたいと考えている。
- ・田原市市民協働まちづくり事業補助金について、活用の敷居が高いと感じる方もいると思うので、市民活動支援センターで相談していけるといいと思う。
- ・市民活動支援制度について、学生が地域の方と協働して活動する場合も対象に含まれるのか。
⇒主体である申請者が市の団体である必要があるが、市内の団体と学生が協働で活動する場合、活用も可能であると考えます。
- ・学生の活動について、大学から助成金はでているものの、活動費に余裕がない。加えて田原市市民協働まちづくり事業補助金の活用ができるとよりよい活動にできると思う。
⇒継続している事業ではなく、事業のスタートアップの際に活用いただきたい。

（2）市の機関の取組について

○大羽委員：資料3について説明。

《資料3補足（大羽委員）》

- ・情報発信として、今年度から防災アプリを開始した。防災情報に加え、市の様々な情報を発信していくので、ぜひご活用いただきたい。

(3) 市民活動支援制度活用状況について

○事務局：資料4について説明。

《委員からの質疑・意見》

- ・伊良湖地域では、西の浜で地引網を有志で10年程継続している。その事業も補助金の対象となるか。
⇒農政課で地引網の助成を活用されている場合もあるため、実際にどんな団体の方が、どのように開催しているかなど、状況をお知らせいただきたい。
- ・人材養成枠・チャレンジ枠は長い間活用がないが、状況を伺いたい。(橋本)
⇒コロナ禍は補助金全体が活用されない傾向にあったが、今年度は活用が増えている。しかし、人材養成枠・チャレンジ枠については申請がないため、補助金のあり方について現在検討中。
なお、チャレンジ枠活用について、1団体が検討している状況。
- ・物価上昇など、現状に合わせて補助金の内容を検討いただきたい。

(4) 田原市民活動支援センターの運営について

○事務局：資料5について説明。

3 その他

○各委員：資料6について説明。

《委員からの質疑・意見》

①渡会委員の報告について

- ・市民活動支援センター「みんなの声」について、行政に対する意見がほとんどだが、どのように対応しているのか。
⇒意見をまとめ、まちづくり会議やATTAKAで取り上げることに留まっている。
- ・意見を担当課まで繋ぐことまでは難しいと思うが、意見を書く場があることに意味があると思う。
⇒意見には氏名の記載もないので、アンケート程度の扱いという考。(事務局)

②橋本委員の報告について

- ・やってみまいマルシェについて、駐車場は何台程度止められるのか。
⇒余裕はあまりない。出展者はロコステーションに止められないか相談する予定。
- ・出展者は今後、自分で店舗を持つことを考えているのか。
⇒子育て中であったり、別で仕事を持っていたり、それぞれの事情があるため、店舗を持つところまで考えていない方もいる。ただ、自分でやりたいことを実現したいという方は多い。
- ・補助金の支出として割合が多いものは何か。
⇒施設料、印刷費など。
- ・団体のメンバーの人数は。
⇒5人。

《総括意見（藤井会長）》

- ・会議を通してどのような取組をしているのかを共有できたと思う。市民活動支援制度の課題についても意見があったので、今回の内容を生かしてより良いものにしていただきたい。

12:05分閉会